雲龍図

天井に描かれた伝統的な墨絵は、建長寺開創 750 年を記念して 2003 年に完成しました。有名な画家・陶芸家の小泉淳作（1924 年～2012 年）の作品です。小泉は、京都の建仁寺の天井に描いた「蒼龍図」などの龍の絵で知られています。

建長寺の絵は、雨をもたらす雲龍という神話の龍を描いています。この雨は、かつて建長寺の住職が法堂で説教をしたことにちなんでいます。知恵は上から雨のように降ってくると言われていますが、その知恵に従うことは雨粒を捕まえるのと同じくらい難しいのかもしれない。

白と黒の配色が、堂内の色鮮やかな幟とのコントラストを際立たせ、龍の凜猛な表情が目を引きます。龍の目は、あなたが法堂のどこにいても、あなたを直視しているように見えます。